

プロジェクト進捗管理シート

方針2 豊かさが実感できる暮らしの実現

5 雇用・社会参加促進プロジェクト

～「満ち足りた」暮らしのための雇用と社会参加の促進～

総括マネージャー	雇用・就業支援担当部長
----------	-------------

目 標

雇用環境や社会参加の仕組みを整備することにより、県民誰もが持てる能力を最大限に活かすことのできる社会をめざします。

総 合 分 析

「満ち足りた」暮らしのための雇用と社会参加の促進をめざし、5つのアクションによりプロジェクトを推進しました。

達成目標5項目のうち、4項目で実績値が確定し、その結果2項目で「順調」な進捗が確認されました。「実績値なし」の1項目については、5年ごとの国勢調査により確定するものです。

「仕事や公共的活動の場で自分の能力を発揮できていると思う人」は各年代とも約7割となっており、年齢に関係なく仕事や社会参加に対する県民の高い意識がうかがえます。

特に、障がい者就職率は、対前年度比3.6ポイントの増と過去最高を更新しています。

また、県内高校生及び大学生の就職内定率は「努力を要する」となりましたが、高校生においてはリーマンショック以降の過去6年間の内定率と比較すると最も高く、大学生においても過去5年間で比較すると2番目に高い水準となっています。

これらのことから、プロジェクトの目標である「誰もが持てる能力を最大限活かすことのできる社会」づくりに向けた取組は、着実に進んでいると考えます。

～プロジェクト推進に向けての課題と今後の方向性～

人口減少・高齢化社会を迎え、豊かな暮らしを支える労働力の確保が一層重要な課題となる中、特に女性の就業促進とそれに伴う環境整備、高齢者が更に活躍できる社会システムの構築に向けた取組を、将来を見据え着実に進める必要があります。

そこで、子育て中の女性に対するハローワークマザーズコーナーと連携した就業相談から職業紹介までの一体的支援の推進や高齢者の多様な社会参加の促進を図るためのネットワーク会議の開催など、雇用環境の整備や社会参加の仕組みづくりを、関係機関等と連携して推進していきます。

達成目標の進捗状況

※進捗区分 ○順調:目安値以上 ○概ね順調:80%以上100%未満の進捗
○努力を要する:80%未満の進捗 ○実績値なし:今年度実績値が把握できない
・進捗割合=(実績値-基準値)/(目安値-基準値)

指標名	暦年	単位	基準値(H22)	H25	H26	H27	H28	目標(H29)
就業率 (全国順位)	目安値	位		—	—	1	—	1
	実績値		1	—				
	進捗区分			実績値なし				
	進捗状況の分析	H25の実績値は、国勢調査が5年毎であるため、総務省統計局の労働力調査モデル推計値で点検した結果、平成25年の年平均就業率は58.9%と、平成22年国勢調査時と同率であり、依然として高い水準を維持しています。						
【目標設定理由】 現状維持を目標として設定 【関連アクション】 アクション1, 2, 3, 4	今後の取組	今後とも目標達成に向け、若者や高齢者などの社会参加と就業促進を図り、特に子育てで離職した女性の再就職支援に積極的に取り組みます。						

(様式第1号)

指標名	年度	単位	基準値 (H24)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
自分の能力が仕事や公共的活動で発揮できていると思う人の割合	目安値	%		69.8	71.1	72.4	73.7	75.0
	実績値		68.6	70.2				
	進捗区分			順調				
	進捗状況の分析	「発揮できている」、「まあ発揮できている」と思う人は合わせて約7割であり、H25年度調査より1.6ポイント増加しています。これは各年代でほぼ同じ割合であることから、年代に関係なく仕事や社会活動に積極的に関わっている結果と考えます。						
【目標設定理由】 現状を上回る数値を目標に設定	今後の取組	今後も女性、若者、高齢者、障がい者の雇用と社会参加の仕組みづくりや、起業支援を推進していきます。特に、ハローワークマザーズコーナーとの連携による子育て中の女性の就業支援や、県内3カ所へのシニア活動推進コーディネーターの配置による高齢者が積極的に社会参加できる環境の整備に取り組めます。						
【関連アクション】 アクション1・2・3・4								
指標名	年度	単位	基準値 (H23)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
県内高校生の就職内定率	目安値	%		100	100	100	100	100
	実績値		99.6	99.8				
	進捗区分			努力を要する				
	進捗状況の分析	雇用情勢が回復してきたことを背景に、高校生の就職内定率は、実績値となる平成26年6月末現在の就職内定状況が99.8%となり、前年同期を0.2ポイント上回りました。これはリーマンショック以降の過去6年間で、最も高い値となっていますが、目安値には至りませんでした。						
【目標設定理由】 現状を上回る数値を目標に設定	今後の取組	在学中からのキャリア教育として、ジョブカフェ信州の出前講座の積極的な活用を図るとともに、未就職者に対しては、ジョブカフェ信州の地域キャリアコンサルティングや就労体験など、就職に向けたきめ細かな支援を行います。						
【関連アクション】 アクション2								
指標名	年度	単位	基準値 (H23)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
県内大学生の就職内定率	目安値	%		95	95	95	95	95
	実績値		93.9	94.1				
	進捗区分			努力を要する				
	進捗状況の分析	大学生の就職内定率は、実績値となる平成26年3月末現在の就職内定状況が94.1%となりました。これは、近年では高い水準となっていますが、目安値には至りませんでした。						
【目標設定理由】 現状を上回る数値を目標に設定	今後の取組	大学の就職担当者と企業との面接会や、県内での合同企業説明会を開催するほか、若者雇用を応援する事業を公募し、新たに民間の発想を取り入れ、事業主と協働で就職支援に取り組めます。						
【関連アクション】 アクション2								
指標名	年度	単位	基準値 (H23)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
障がい者就職率	目安値	%		49.9	51.2	52.5	53.8	55.0
	実績値		48.6	52.6				
	進捗区分			順調				
	進捗状況の分析	H25年度は企業に対する雇用の働きかけの強化や、企業の職場実習の充実などに重点的に取り組みました。この結果、就職のマッチング件数が増加するなど、目標達成に向けて順調に推移しています。						
【目標設定理由】 全国上位となる水準を目標として設定	今後の取組	企業の職場実習の場を創出拡大していくOJTの推進や、障がい者就業・生活支援センターによる個々の障がい者に寄り添った就労支援に重点的に取り組むことで、障がい者就職率の向上を図っていきます。						
【関連アクション】 アクション4		また、農業と福祉の連携モデルケースづくりに向けた検討を進め、農業分野における障がい者の雇用の場(施設外就労を含む)の創出に重点的に取り組めます。						

**アクション
1**

(女性の雇用と社会参加の促進)

企業・地域社会の意識改革や子育て支援策の推進、女性の就業継続や再就職に対する支援などに取り組み、女性の雇用と社会参加を促進します。

【アクションの進捗状況】

働く女性応援アドバイザーなどによる積極的な企業訪問により、企業における女性の就業に対する意識の醸成と、女性が働きやすくなる環境の整備が促進されました。

また、女性創業相談月間の設定などにより、ながの創業サポートオフィスにおける女性からの創業相談件数の割合も前年度に比べ伸びており、今後創業を希望する女性の増加が期待されます。

主な成果

●ワークライフバランスや子育て支援に取り組む企業を応援

企業に対するワークライフバランスの考え方の啓発や、従業員の子育てを応援する企業独自の取組を県ホームページで広く発信するとともに、就業に悩みを持つ子育て中の女性の相談支援を実施

・就業相談件数 997件
・「社員の子育て応援宣言」登録
H25目標：320社
実績：347社



《子育て応援登録企業の風景》
社員の子どもたちと一緒に食事会

●女性の創業をサポート（ながの創業サポートオフィス）

創業の意識を高め、潜在的な創業希望者の掘り起こしを行い、多様な創業スタイルを支援

助言、相談をワンストップで実施し創業前から創業後まで総合的にサポート

・女性相談強化月間 H25：3回
・創業相談件数 H24：35件
H25：46件

**アクション
2**

(若い世代の雇用と自立の促進)

ニートやひきこもりなど支援が必要な若者も含め、若い世代の雇用と自立を促進します。

【アクションの進捗状況】

社会的・職業的自立が必要な若者に対し、パーソナルサポートセンターなどの寄り添い型支援やジョブカフェ信州の多様な就職支援サービスの提供などに加え、市町村やNPOなどの関係機関が連携した適切な支援体制が構築されてきたことにより、若者の就業意識の醸成や雇用の促進、自立に向けた社会参加の促進が図られました。

主な成果

●若者の就職をワンストップで実現

ジョブカフェ信州における丁寧なキャリア・コンサルティングや各種セミナー、就労体験、市町村と連携したミニジョブカフェ等の実施により就職を支援

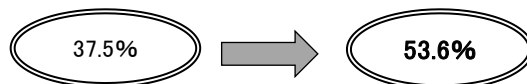
●就職に困難を抱える人をサポート

県内4か所のパーソナルサポートセンターが、自立を目指しながらも様々な問題を抱える者に対して、制度横断的かつ継続的な支援を行い、就労を実現

ジョブカフェ信州利用者の就職率

開所からH23年度平均

H25年度



H25実績 来所者 11,310人
セミナー受講者 12,457人
出張相談 216人

相談者 2,121人
就労決定 664人 (H23.3開所～H25年度)

●困難を有する子ども・若者の社会的自立を支援

ニートや引きこもりなどの社会生活を円滑に営む上での困難を有する子ども・若者に対し、支援事業を行う団体等に補助金を交付



出口戦略を持った居場所の提供(干し柿づくり：若者参加のまちづくり協議会)

＜補助対象事業利用者数＞	
訪問相談（アウトリーチ）	15人（H25目標4人）
出口戦略を持った居場所の提供	11人（同上 7人）
宿泊を伴う研修	10人（同上 4人）
※H25.9～H26.3実人員	

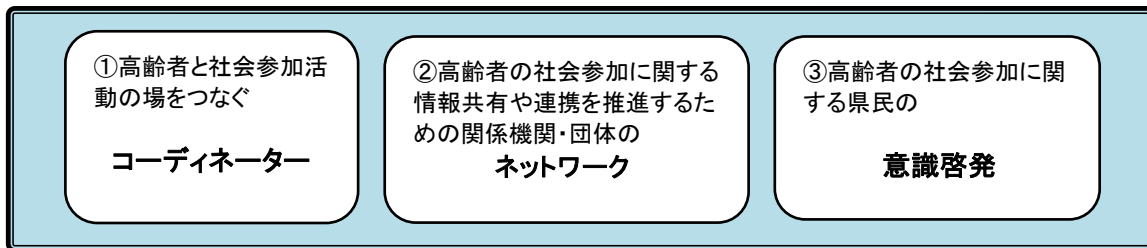
アクション 3 **（人生二毛作社会の仕組みづくり）**
 シニア・シルバー世代が、その培ってきた知識と経験を活かして、積極的に就業や社会参加を行うことができる「人生二毛作」社会実現のための仕組みをつくりまします。

【アクションの進捗状況】
 4回にわたる「人生二毛作推進県民会議」において、高齢者が長年培った専門知識や経験を、職場や地域で活かせるような新しい仕組みや、ボランティアなどの社会参加を促進する仕組みなどが検討され、「人生二毛作社会実現」への取組を推進する方向性が示されました。

主な成果

●「人生二毛作社会」に向けた新たな仕組みづくりを推進

「人生二毛作推進県民会議」で高齢者の社会参加に関する課題の把握と対応策を検討



新たな仕組みづくりの推進（平成26年4月～）

長寿社会開発センター本部（長野）及び支部（上田・諏訪）にシニア活動推進コーディネーター3名を配置し、シニア層の就業や社会参加のための関係機関とのマッチング、仕組みづくりを推進

アクション 4 **（障がい者の社会参加と雇用促進）**
 障がいを理解し、障がい者を応援する社会づくりや障がい者が能力を発揮できる環境づくりを進め、障がい者の社会参加と雇用を促進します。

【アクションの進捗状況】
 障がい者職域拡大アドバイザーの事業所訪問などによって、障がい者の理解と就業が促進されました。また、障がい者を地域で応援する「信州あいサポート運動」を新たに実施することにより、障がい者を地域で支える環境づくりが更に進むことが期待できます。

主な成果

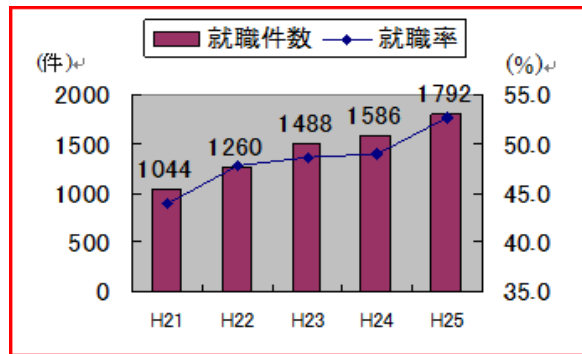
●障がい者の理解と就業の促進

障がい者職域拡大アドバイザーや地方事務所の求人開拓員が、小規模事業所等を中心に、障がい者雇用への理解の向上や雇用する事業所の開拓、職域を拡大する取組を実施

- ・事業所訪問による求人開拓
- ・事業所向けセミナー
- ・特別支援学校見学会など

《就職者数》
H25目標: 150人
H25実績: 294人
《求人開拓数》
117件

ハローワークにおける障がい者の職業紹介状況



●信州あいサポート運動を推進

誰もが、多様な障がいの特性、障がいのある方への必要な配慮、障がいの有無にかかわらず共に生きる社会のあり方などを理解して、障がいのある方に対してちょっとした手助けや配慮を実践することにより、障がいのある方が暮らしやすい地域社会（共生社会）を県民の皆様と一緒につくっていく運動



あいサポーター数 13,165人 (H26.3月末)
あいサポート企業・団体 18企業・団体

あいサポート運動のマーク

アクション 5

(多様で安心できる働き方の検討)

誰もが自らの価値観を尊重し仕事と生活の両立が可能な社会をめざすため、多様で安心できる働き方について検討します。

【アクションの進捗状況】

1,500社を超える企業訪問により、ワークライフバランスの考え方の啓発が図られたとともに、短時間正社員制度などの多様な勤務制度を新たに導入した企業が増加し、安心して育児や介護の両立ができる職場環境整備が進みました。また、事業所等への積極的な訪問により、福祉的就労と一般就労の中間的な就労の場を必要とする方に対する理解が進みました。

主な成果

●働きやすい勤務制度の普及を促進

推進員の積極的な企業訪問により、ワークライフバランスの啓発や、育児や介護でも働き続けられる多様な勤務制度導入の働きかけを実施

子育て等応援制度
導入推進員による
企業訪問: 1570社

導入目標数(H26末) 30社
H25導入実績 36社
・短時間正社員制度 24社
・法定以上の育児介護休暇規定 11社 など

●就職困難者が働きやすい職場を開拓

中間的就労コーディネーターが、不登校経験者や一定の障がいがありながら障がい認定には至らない者など、直ちには一般就労が困難な者に対し、福祉的就労や一般就労ではない「中間的就労」に意欲がある事業所を開拓し、マッチングを支援

・事業所や業界団体へ訪問して中間的就労を啓発し、協力を要請
・セミナーの開催
・支援者と事業者とのマッチング支援

中間的就労の受入れに理解を示す事業所の開拓数
H25目標: 10社 実績: 10社